

くろいネコときいろいカラス



じょうだいこうすけ

ガシャン！！

かねこ

だいす

しゅじん す

飼い猫だったくるいネコは、大好きだったご主人に捨てられてしまいました

しゅじん

だいす

ご主人のことが大好きだったのに、ネコにはどうしてなのかわかりません

とほう く

もと

いちわ

かよ

途方に暮れているネコの元に、一羽のきいろいカラスが駆け寄ってきました

「どうしたんだい? <sup>げんき</sup> <sup>だ</sup> 元気を出して」と、<sup>とくい</sup> <sup>おど</sup> <sup>ひろう</sup> きいろいカラスは得意の踊りを披露してくれました

「ボクもひとりぼっちなんだ

<sup>わる</sup> <sup>と</sup> ツバサが悪くて飛べないけど、<sup>か</sup> <sup>びい</sup> <sup>も</sup> その代わりにいろいろな芸を持っているよ」

<sup>かな</sup> <sup>こころ</sup> ネコは悲しかった心がスッとなるのを感じ、<sup>かん</sup> <sup>かた</sup> <sup>よ</sup> <sup>あ</sup> ふたりは肩を寄せ合いました



い あ た ぼし まいにち す  
行く当でのないふたりはゴミ溜めのような場所で毎日を過ごし  
カラスはそこにあるゴミを使い、ネコにたくさんの芸を披露してくれました  
ネコはそれに合いの手を入れ、そうやってふたりは辛い毎日をやり過ごしました

しかし、<sup>た</sup>ゴミ溜め<sup>せいかつ</sup>での生活<sup>なに</sup>は何も<sup>か</sup>変わりません <sup>た</sup>食べるもの<sup>まんぞく</sup>も満足<sup>まいにあ</sup>になくひもじい毎日<sup>まいにあ</sup>でした

ああ、<sup>しゅじん</sup>ご主人<sup>く</sup>と暮ら<sup>いえ</sup>していた<sup>こい</sup>あの家<sup>こい</sup>が恋<sup>こい</sup>しい

<sup>しゅじん</sup>ご主人<sup>はじ</sup>に初<sup>だいじ</sup>めても<sup>くびわ</sup>らった<sup>くびわ</sup>大事な<sup>くびわ</sup>首輪<sup>くびわ</sup>もボロボロ

ネコ<sup>よご</sup>は汚<sup>じぶん</sup>れた<sup>からだ</sup>自分の<sup>からだ</sup>身体<sup>からだ</sup>と、<sup>すがた</sup>ホユリ<sup>おご</sup>まみれ<sup>おご</sup>のみ<sup>み</sup>すぼ<sup>おも</sup>らしい<sup>おも</sup>姿<sup>おも</sup>で踊<sup>おも</sup>る<sup>おも</sup>カラス<sup>おも</sup>を見て<sup>おも</sup>思<sup>おも</sup>いました



ある日、ネコは小さな花を見つけて眺めていました

カラスはまた踊りを披露していると、あやまって花を踏みつぶしてしまいました。

カラスは気づかず踊っているそばで、ネコは「ああ...」と肩を落としました

何をするにも楽しくなくなったネコは、カラスを置いてひとりでゴミ溜めを出て行きました



まろ ひとびと あし がえ すきま かがや  
街は人々の足でどった返し、その隙間からクリスマスツリーがキラキラと輝いています

うすほこ ちか  
薄汚れたちっほけなネコにはとても近づけません

にんげん かた の きれい しる うらや みあ  
ネコは人間の肩に乗った綺麗なまっ白いネコを羨ましげに見上げました

結局、ネコはいつものゴミ溜めに帰ってきました

しかし、そこにカラスの姿はありませんでした

夜のゴミ溜めにひとりぼっち

ここで生きていくしかないんだ

ネコは痛感しました

そんな毎日に彩りを与えてくれていたのは、

一生懸命にネコを楽しませようとするカラスだけだと気づきました

カラスにもう一度会いたい そしてずっと一緒にいたい



なが よる あ あさ かえ  
長い夜が明け、朝になってもカラスは帰ってきません

みわた あか はね お  
あたりを見渡すと、わずかに赤くなったきいろい羽が落ちていました

なに さが はし だ  
カラスに何かあったんだ ネコはカラスを探した走り出しました





たいよう  
太陽がてっぺんまでのぼり、やがてかたむきはじめても

い き ぱり つ  
ネコは はあ はあ と息を切らせて走り続けました

なんにち ほん た や ぼそ  
もう何日も まともにご飯を食べていない痩せ細ったネコはふらふらでした

きがつくと、たどり着いたのは見知らぬ最果ての海辺

疲れ果てたネコはとうとう倒れ込んでしまいました

わずかにあいた目で波の音に目をやると、そこに黒いなにかが横たわっていました

ネコは力を振り絞り駆け寄りました


「...やあ、探したんだよ」黒いなにかはあのきいろいガラスでした

「昔のご主人と、バツタリ鉢合わせしてしまっただね」

むかし よ めずら きいろ か  
カラスは昔、「世にも珍しい黄色いカラス」としてサーカスで飼われていました

ぬ げい しこ とき と は けず  
ペンキを塗られて芸を仕込まれ、その時に飛んで逃げないようにと、ツバサを傷つけられました

にんき す  
やがて人気が無くなって捨てられてしまい  
さいかい しゅしん いか まか いた  
再会したと主人は、怒りに任せてカラスを痛めつけ  
かわ す  
川に捨ててしまったのでした



<sup>あし</sup>ツバサも足もボロボロで、もう踊ることもできそうにありません

<sup>ほそ</sup> <sup>こえ</sup> <sup>あ</sup> <sup>め</sup> <sup>うるま</sup>  
カラスはか細い声で「また会えてよかったよ」と目を潤ませました

<sup>お</sup> <sup>くる</sup> <sup>だ</sup> <sup>あ</sup>  
ペンキがすっかり落ちてしまった黒いカラスを、ネコは抱き上げました

どうすることもできないでいるネコに

<sup>せい</sup> <sup>い</sup> <sup>はい</sup> <sup>まえ</sup> <sup>ゆび</sup>  
カラスはふるえるツバサで、精一杯に前を指さしました

ゆうひ きれい そら うみ おうこんいろ かがや  
「みて、夕日がとても綺麗だよ 空も海も みんなみんな、黄金色に輝いているよ」

たが み  
ふたりは互いを見つめあいました

こうぶく おうこんいろ  
「ああ わたしのカラス わたしの幸福の 黄金色のカラス」

こゝろにんげんす  
傲慢な人間に捨てられたネコとカラス



よる おとす  
夜の訪れとともに、ふたりは一つの黒い塊となり

のこ  
残されたネコは、ゆっくりと目を閉じることしかできませんでした

絵本「くろいネコときいろいカラス」をご覧ください、誠にありがとうございます。本作は、写真を切り抜いて合成する「コラージュ」という手法で制作されています。この物語は、自主制作映画「ラブソングに捧げられた恋人たち」およびその続編「next chapter」の併せて約2時間の物語を、キャラクターやモチーフを圧縮・再構築して出来上がったものです。この絵本はこの後公開する自主制作映画「光の言及」にて大きな意味を持ちます。そのため、先に絵本と朗読動画を公開しました。

映画本編では、ご主人に捨てられてしまったお手伝いロボットのふたりの物語でした。きいろいカラスはきいろい衣装を着たピエロ、くろいネコはくろい身体の彼女。ふたりが出会い、一緒に生きた出来事を、彼女の視点から見てどうだったのかを描き直しています。

朗読動画の冒頭は、「ラブソングに捧げられた恋人たち next chapter」のラストシーンのその後の出来事です。自分を責め、世界を呪って最期を遂げた彼女が「地縛霊」として目を覚ますところから始まります。手元にあった白い本は、彼女の思いを具現化したもので、彼女が読み終えるとそれは消えてしまいます。彼女は自分の人生を振り返り、自分はその時どうすべきだったのかを考え続けます。それが後の自主制作映画「光の言及」につながっていきます。映画祭や公募展に出品後、2024年の冬に公開します。自らをくろいネコと称して後悔を抱えた「ラブソングに捧げられた恋人たち」の彼女の魂が、死後、許された延長線上で何を見出すのか。もう少しだけお付き合いください。

2023年11月 城台 宏典



ラブソングに捧げられた恋人たち  
全編無料公開



ラブソングに捧げられた恋人たち next chapter  
全編無料公開







くろいネコときいろいカラス 絵本朗読



 ~~本編PDF無料配布~~ + 特報映像



**HORAMA-LINE**  
 Velvetic vistav Relationship

